

## 英語の授業における日本語の使用についての考察

小 倉 美津夫

日本福祉大学 国際福祉開発学部

### Consideration on the Use of L 1 in English Classes in Japan

Mitsuo OGURA

Faculty of International Welfare Development, Nihon Fukushi University

Keywords : 英語の授業は英語で, 学習指導要領, 母語 (L1), 日本語使用

#### Abstract

The aim of this paper is to consider the use of L1 (the Japanese language) in English classes in Japan. In 2013 the Ministry of Education announced that when taking into consideration the characteristics of each English subject, classes, in principle, should be conducted in English in order to enhance the opportunities for students to be exposed to English, transforming classes into real communication scenes. Since then, English teachers have been struggling to use English only, without using any Japanese, in their classes. Referring to a worldwide knowledge and findings of the use of L1 in foreign language classes, the research results indicate that English teachers should use L1 in English classes in Japan without any hesitation.

#### 要旨

日本における英語の授業において第一言語, すなわち日本語, を使用することについて考察する。2013年に文部科学省はそれぞれの英語科目の特徴に鑑み, 生徒が英語に触れる機会を増やし, 授業を実際のコミュニケーションの場面とするために原則として, 英語の授業は英語で行うこととすると学習指導要領の中で規定した。それ以来, 英語教員は授業において日本語を使わずに英語のみを使用することに悪戦苦闘してきている。外国語の授業における母語の使用に関する世界的な知見を参照しながら, 日本において英語教員は英語の授業において迷うことなく母語を使用することを提示する。

#### 1. 背景

新しい学年暦が始まり, 英語音声学の最初の授業を英語で始めたことがある。その最初の授業の中で, しばらくは学生たちも大事な事柄を聞き逃さないように真剣な面持ちで耳を傾けていた。その授業はそのまま何もな

く終わった。その次の授業でも, 英語による挨拶から Teacher talk を経て, 音声学の講義と実践に入っていった。ところが, 授業も中程にさしかかると, ある学生が「日本語で授業をやって欲しい」と言った。「英語の授業なのだから英語で行う」と言ったところ「全部を理解で

きないので日本語を入れてください」と反応が返ってきた。そこで、教科の特性上もあり、英語と日本語を半々で授業を進めることにした。学生たちは安心をして、それ以後の授業も真剣に説明を聴き、ノートをとり、調音、発音の練習に励んでいた。しかし、著者は、実際に日本語を使用することにより理解が深まり、学生たちの目標言語使用や習得にネガティブな影響がないのだろうかと考え、著者が教えている学生たち、他学部の学生たち、高校生（普通科と英語科）、英語教員たちに意識調査をすることにした。

## 2. 先行研究

Krashen (1981: 67) は「外国語を習得するのは子どもが母語を獲得するような自然で、無意識的な過程である。したがって、母語の使用は最小限にされるべきである。」と提唱した。さらに、多くの英語教育専門家たちは、授業において第1言語（以後母語と呼ぶ）使用は考えられないし、今日のコミュニケーションがどうやって行うことができるのかと疑問を呈している。一方で、目標言語の獲得は目標言語でのみ行うべきであるという考えに異論を唱える学者たちが出てきた。Hopkins (1988: 18-24) は、「個人としてのアイデンティティーの感覚は母語と切り離せないほど密接に関係している。だから、もし第2言語の学習が母語を無視するよう勧められれば、自分のアイデンティティーは脅かされると感じるのももっともである。」としている。Atkinson (1993: 13) は「母語は重要なリソースであり得るし、単一言語使用クラスの教師は誰でも母語使用を悪いことだとする理由は確かにない。」としている。また、母語を排除することはその母語を批判することになり、その母語を下級の言語だと思わせてしまうという議論もあった。Nation (2003: 7) は「母語を下等だと見なすことは目標言語の学習者たちに心理的に悪い影響を与える。」と述べている。

最近、第2言語習得あるいは外国語としての英語習得の専門家たちの間で、外国語としての英語学習環境における母語が果たす役割の必要性について新たに気づきが起きている。たとえば、Nunan and Lamb (1996: 100) は「英語運用能力がより低い生徒を教えている教師たちは母語の使用を禁止することは実際不可能であると考え

ている。」と強く主張している。また、Dörnyei and Kormos (1998: 349-385) は「目標言語で不足しているところを補うためのコミュニケーション方略として第1言語が第2言語学習者によって使用されている。」としている。Auerback (1993: 9-32) は授業における母語の積極的役割を認めるだけでなく、授業を受ける際の安心感、教室管理、言語分析、文法規則の提示、異文化問題の論議、指示や言葉を発するきっかけを与えること、誤りの説明、そして理解の確認のためにも母語の使用を認めている。

日本の英語教育研究者で同時通訳者でもある鳥飼 (2018: 99-100) は、英語のみによる授業を行うことに異論を唱えると共に警鐘を鳴らしている。英語のみで授業を行うと生徒は授業の内容を十分に理解せず、自信を失ったり、英語で言語活動の説明が終わり、何らかの活動をするときになって、隣の生徒に「先生、今なんて言ったの?」と尋ねたりしている場面を学校現場で観察している。さらに、英語だけの授業は内容が浅薄になり、生徒の知的関心を喚起しないとも述べている。また、海外の外国語教育研究においては、母語の使用と翻訳の効用を積極的に認める流れが出てきているとして次のような事例を紹介している。

世界の外国語教育に多大な影響を与えている欧州評議会による「複言語主義」(Plurilingualism) では、母語の重要性を指摘し、母語を活用しつつ母語以外に二つの言語を相互に関連付けて学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力を育成することを目指している。その複言語主義を具現化するために開発されたCEFR (Common European Framework of Reference for Languages 欧州言語共通参照 枠) では、「訳す」ことも重要な能力として扱っている。(中略)「英語を英語だけで教えること」は、指導方法の一つとしてはありうるが、唯一無二の正しい指導法とは限らない。

このように、英語教育の専門家たちの英語習得学習における母語使用については様々な考えがあることがわかる。そこで、実際に英語教育を受ける生徒・学生や高校・大学の英語教員は英語の授業内での日本語使用についてどのように考えているのかを調査してみた。

### 3. 調査結果の分析と考察

#### 3.1 調査対象者

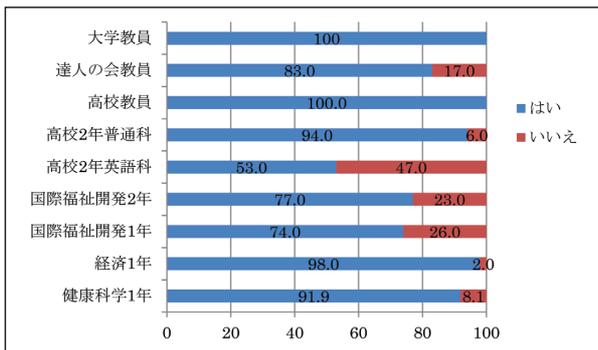
愛知県内の私立大学の健康科学部1年生123名、経済学部1年生84名、国際福祉開発学部1年生35名、国際福祉開発学部2年生31名、大学英語担当教員5名、愛知県内県立高等学校英語科2年生36名、普通科2年生36名、愛知県立高等学校英語教員9名、愛知県内中学校・高等学校英語教諭で組織する「英語授業達人の会」の会員18名である。

#### 3.2 調査の方法

Schweers (1999: 6-12) のアンケート調査を参考にし、生徒・学生用に7項目、教員用に6項目の質問項目を作成した。

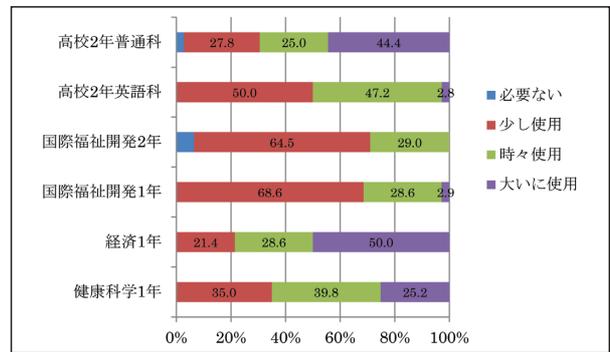
#### 3.3 結果および考察

問1 英語の授業で日本語を使うべきだと思いますか。



健康科学1年、経済1年、高校2年普通科についてみると、英語の授業や英語で授業を受けている時間数が比較的少ないことと英語学力が低い生徒が多いことにより「はい」と答えた割合が、90%を越えている。国際福祉開発1年は74%が、2年生は77%が「はい」と答えている。これは他学部比べて英語の履修時間がかなり多いことや英語で授業を受けている機会が多いことからの結果である。高校2年英語科の生徒は「はい」と答えた割合が、53%と一番低い数値であった。これはこの高校では文科省のSELHi研究指定校でもあり、英語の授業を英語で行っていて、日本語を使わないことに慣れていることが報告されていることからわかる。一方、高校教員、大学教員では、100%が「はい」と答えている。これは、「複雑な文法項目を説明する時」や「難解な概念や考えを説明する時」に日本語が必要だと考えているからである。

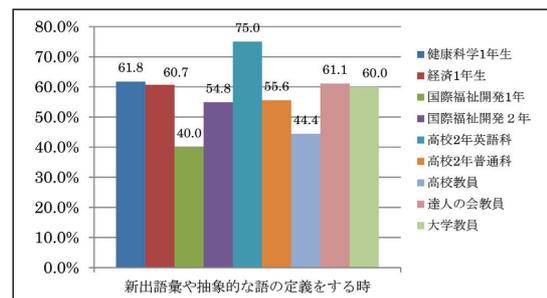
問2 英語の授業であなたの先生に日本語を使ってほしいですか。



「必要ない」と答えた者が、きわめて少ない割合で、高校2年普通科2.8%、国際福祉開発2年6.5%であった。日本語を「必要ない」と「少し使用」を含めると、国際福祉開発1年68.6%、国際福祉開発2年71%、高校2年英語科50%である。これは、問1でも見られたように、英語で授業を受けることに慣れていることが理由である。日本語を「時々使用」と「大いに使用」を含めると、健康科学1年65%、経済1年78.6%、高校2年普通科69.4%である。これは、英語の学力がやや低い生徒が多いことと英語の授業を英語で受けることに慣れていないことが理由であると考えられる。

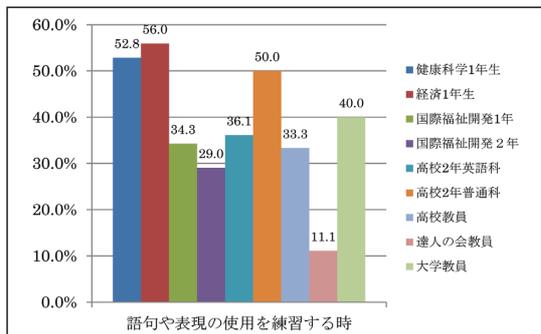
問3 英語の授業においていつ日本語を使う必要があると思いますか。(複数回答可)

1) 新出語彙や抽象的な語の定義をする時



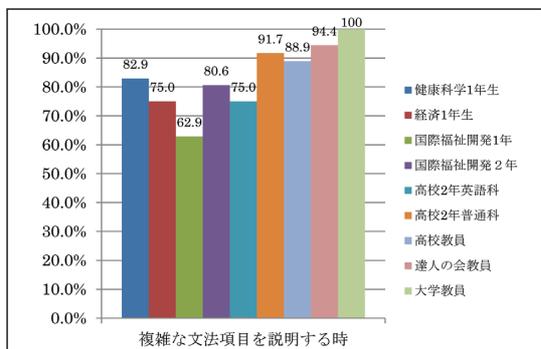
「新出語彙や抽象的な語の定義をする時」を選んだのは高校2年英語科の75%で、健康科学1年、経済1年、国際福祉開発2年、高校2年普通科、達人の会教員、大学教員が50%を超える割合である。国際福祉開発1年と高校教員は、「新出語彙や抽象的な語の定義をする時」にあまり日本語を必要としないことがわかる。

### 2) 語句や表現の使用を練習する時



「語句や表現の使用を練習する時」を選んだのは経済1年の56%と最も多く、続いて健康科学1年の52.8%、高校2年普通科の50%と続いている。最も少ないのが国際福祉開発2年の29%である。教える側の達人の会教員は11.1%と最も少なく、日頃から英語で授業をしていることと、語句や表現の使用を練習する際に細かく説明を要しないし、練習のための指示を与えることが多いため英語で十分指示を理解させることができている。

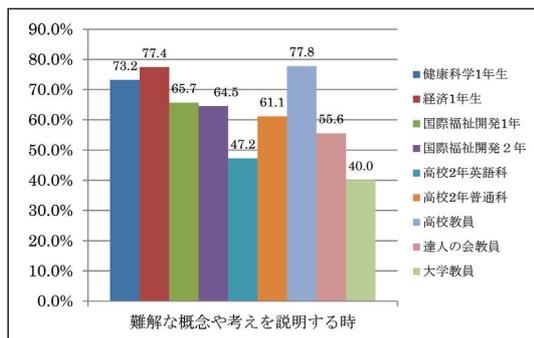
### 3) 複雑な文法項目を説明する時



「複雑な文法項目を説明する時」については、学習者側も教える側も全体的に日本語使用が必要と考えている。国際福祉開発1年は、62.9%が日本語使用を必要と考えており、国際福祉開発2年の80.6%より17.7ポイント少ない。また、高校教員と大学教員で見ると、大学教員は100%が日本語使用を必要と考えており、高校教員は88.9%となっている。多少の差はあるが、教員全体で考えると、文法項目を説明する時は日本語の使用が必要だと認識している。

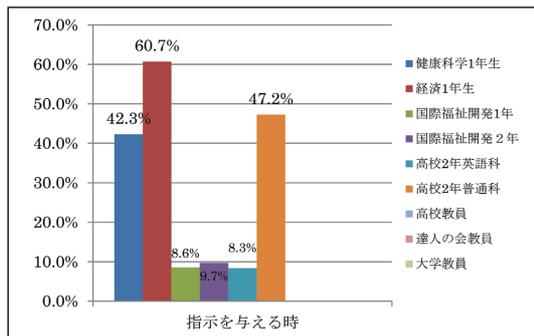
### 4) 難解な概念や考えを説明する時

「難解な概念や考えを説明する時」最も多い割合で答えたものは、高校教員の77.8%で、次いで経済1年の



77.4%、健康科学1年の73.2%となっており、最も少なかったのは大学教員の40%で、次いで高校2年英語科の47.2%であった。高校教員が多かったのは生徒が英語で理解する力や高校教員が英語で説明する力に自信がなかったり、適切な英語力が不足していたりすることなどが考えられる。

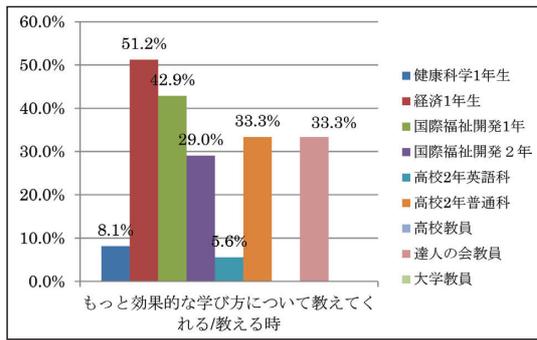
### 5) 指示を与える時



「指示を与える時に日本語を使ってほしい」と考えているのは、経済1年の60.7%が最も多く、次いで高校2年普通科の47.2%、健康科学1年の42.3%である。国際福祉開発1年・2年と高校2年英語科は指示を与える時に日本語はほとんど必要ないと考えていることがわかる。教員については全員が、指示を与える時に日本語は必要ないと考えている。

### 6) もっと効果的な学び方について教えてくれる / 教える時

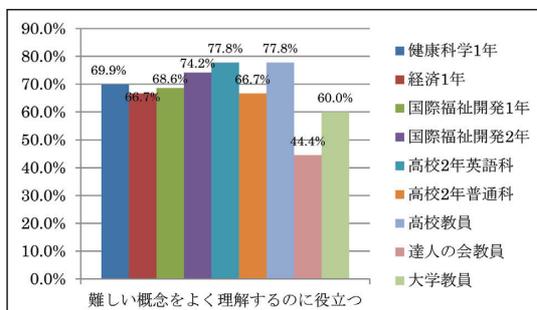
生徒・学生について見ると、英語のもっと効果的な学び方について教えてくれる時に日本語が必要だと考えているのは、経済1年の51.2%が最も多く、次いで国際福祉開発1年の42.9%、国際福祉開発2年の29%となっている。教員の側で見ると、英語のもっと効果的な学び方について教える時に日本語が必要だと考えているのは、



達人の会教員が33.3%となっており、高校教員と大学教員については、英語のもっと効果的な学び方について教える時に日本語は必要ないと考えている。達人の会教員は日頃英語の授業を英語で実践しているが、その中でも日本語の必要性を認めているのは、教えているクラスの中に学力差が著しい生徒たちを相手にしていることと生徒が教師の英語をしっかりと理解できるかどうか不安が残るからだろう。

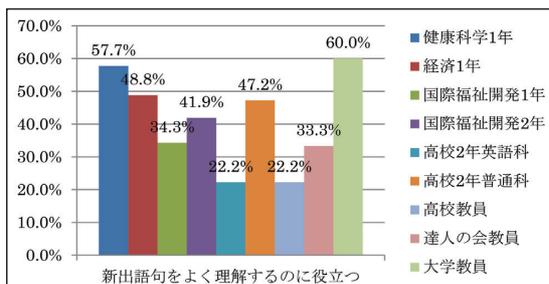
問4 もし英語の授業で日本語の使用が必要だとするならば、それはなぜですか。(複数回答可)

1) 難しい概念をよく理解するのに役立つ



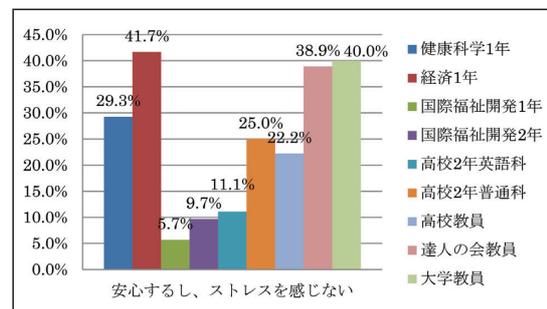
「難しい概念をよく理解するのに役立つ」を選んだのは、高校2年英語科と高校教員が最も多く77.8%である。これら以外の多くのものたちも、同様な考えである。

2) 新出語句をよく理解するのに役立つ



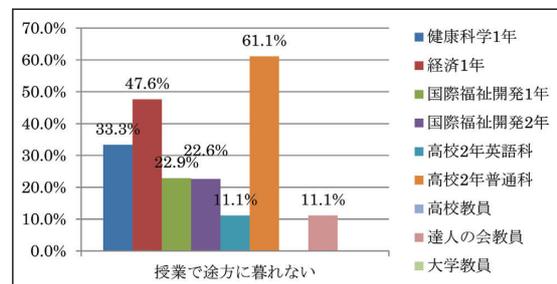
「新出語句をよく理解するのに役立つ」を選んだものは、大学教員の60%が最も多く、次いで健康科学1年の57.7%、経済1年の48.8%となっている。一方、高校2年英語科と高校教員ではこの選択肢を選んだものが22.2%と達人の会教員が33.3%と低い数値である。英語で授業を行っている教員、英語で授業を受けている生徒にとって新出語句の理解には日本語をあまり必要としていないことがわかる。

3) 安心するし、ストレスを感じない



英語の授業で日本語使用が必要だと考える理由として「安心するし、ストレスを感じないから」を選んだのは、経済1年の41.7%が最も多く、次いで大学教員の40%、達人の会教員の38.9%、健康科学1年の29.3%と続いている。全体的に見ると、「安心する、ストレスを感じないから」日本語使用が必要だと考えるのは50%に満たない。従って、この理由は英語の授業を英語で行ってもあまり影響がないことがわかる。

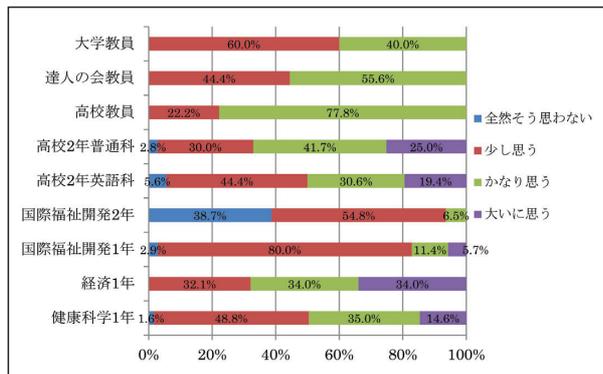
4) 授業で途方に暮れない(授業について行くことができる)



英語の授業において日本語使用が必要な理由として「授業で途方に暮れない(授業にきちんとついて行ける)から」を選んだのは、高校2年普通科の61.1%が最も多く、経済1年の47.6%、健康科学1年の33.3%と続いている。他方、高校教員と大学教員はこの選択肢を一

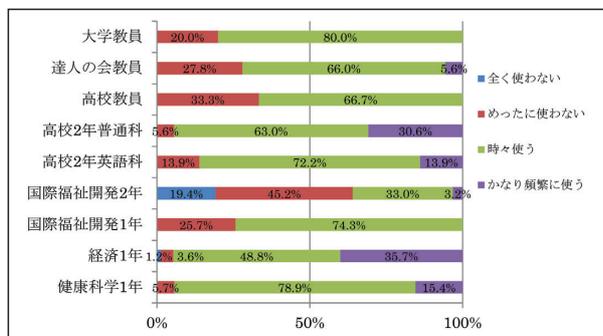
人も選ばなかった。また、高校2年英語科と達人の会教員は11.1%と同じ割合で、英語で授業を行ってもきちんと行けると考えるものが多いことがわかる。

問5 英語の授業において日本語使用は英語を学ぶ上で役に立つと思いますか。



日本語使用は英語を学ぶ上で大いに役立つと思うを選んだのは、経済1年の34.0%で最も多く、次いで高校2年普通科の25%である。「大いに思う」と「かなり思う」を合わせると、高校教員の77.8%が最も多く、経済1年の68%、高校2年普通科の66.7%、達人の会教員の55.6%、高校2年英語科の50%と続いている。高校教員は英語の授業において日本語使用は肯定的に受け止めていることがわかる。一方、大学教員は「大いに思う」と「かなり思う」を合わせると、40%と高校教員よりは少ないが、高校教員同様日本語使用について肯定的な考えを持っている。

問6 英語の授業でどの程度日本語を使うとよいですか。この間は生徒・学生と教員で分けてみてみたいと思う。



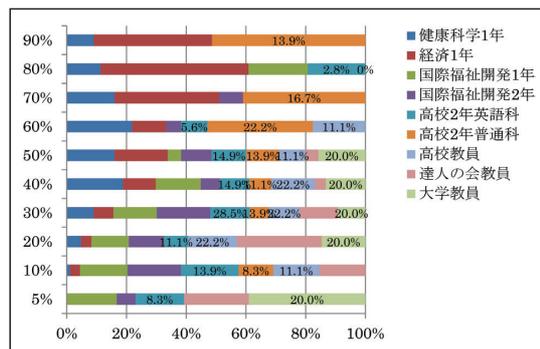
生徒・学生で見ると、日本語を「全く使わなくてよい」と考えているものが、国際福祉開発2年の19.4

%, 経済1年の1.2%である。「全く使わない」と「めったに使わない」を合わせると、国際福祉開発2年の64.6%が最も多く、次いで国際福祉開発1年の25.7%である。逆に、日本語をかなり頻繁に使ってほしいと思っているのは、経済1年の35.7%、高校2年普通科の30.6%が目立って多い。「かなり頻繁に使う」と「時々使う」を合わせると、健康科学1年の94.3%が最も多く、高校2年普通科93.6%、高校2年英語科86.1%、経済1年84.5%となっている。

教員で見ると、日本語を全く使わないと考えているものは一人もいない。大学教員は「時々使う」を選んだものが80%と高い数値を示し、高校教員についても約70%が日本語使用を選んでいる。これは、生徒・学生、教員たちの大多数が日本語を使うことに肯定的な考えを持っていることを示している。

問7 1時間(50分)の英語の授業において何%ぐらい日本語を使ってほしいですか。

日本語使用の割合	5%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%
健康科学1年	0%	0.9%	6.5%	19.5%	28.5%	20.3%	13.8%	6.5%	1.6%	2.4%
経済1年	0%	2.4%	4.8%	14.3%	16.7%	22.6%	7.1%	14.3%	7.1%	10.7%
国際福祉開発1年	8.6%	11.4%	17.1%	31.4%	22.9%	5.7%	0%	0%	0%	0%
国際福祉開発2年	3.2%	12.9%	16.1%	38.7%	9.7%	12.9%	3.3%	3%	0%	0%
高校2年英語科	8.3%	13.9%	11.1%	28.5%	14.9%	14.9%	5.6%	0%	2.8%	0%
高校2年普通科	0%	8.3%	0%	13.9%	11.1%	13.9%	22.2%	16.7%	0%	13.9%
高校教員	0%	11.1%	22.2%	22.2%	22.3%	11.1%	11.1%	0%	0%	0%
達人の会教員	11.1%	11.1%	38.8%	27.8%	5.6%	5.6%	0%	0%	0%	0%
大学教員	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0%	0%	0%	0%



生徒・学生で見ると、1時間(50分)のうち日本語使用は5分程度でよいと考えているのは、高校2年英語科22.2%、国際福祉開発1年20%、国際福祉開発2年16.1%である。また、日本語使用は授業の半分未満、すなわち25分未満でよいとするのは、国際福祉開発1年91.4%、国際福祉開発2年80.6%、高校2年英語科76.7%、健康科学1年55%となっている。国際開発1年・2年と高校2年英語科については日頃英語で授業を

受けていることから日本語使用は少ない方がよいと考えていることがわかる。しかし、それらのグループにおいても日本語を半分以上使用してほしいと考えているものが少なからずいることを見逃してはならない。特に、高校2年普通科では66.7%、経済1年で57.8%、健康科学1年で44.6%もの学生たちが半分以上(25分以上)日本語を使用してほしいと望んでいる。

教員に目を向けてみると、日本語使用は授業の半分未満、すなわち25分未満でよいとするのは、達人の会教員94.4%、大学教員80%、高校教員77.7%と非常に高い数値を示している。特に、達人の会教員では、日本語使用は5分以内でよいと考えているものが22.2%、大学教員で20%いる。

#### 4. まとめ

2009年3月に文部科学省が告示した学習指導要領には、高校の英語授業は「英語で教えることを基本とする」と明記された。英語のインプットを多くし、英語でコミュニケーションをしている場面の模擬体験の場とするということであるが、2009年以前の英語科目「オーラル・コミュニケーション」の授業を使って日本語で文法を教え「OCG」(オーラル・コミュニケーション・グラマー)に化けている現状を是正すべく打ち出したショック療法でもあると言える。「英語で教えることを基本とする」ということは、あくまで基本であって、日本語の使用を禁じているわけではない。コミュニケーション・アプローチの導入によって、様々な種類の言語活動が行われてきている。学習者は以前よりもペア・ワークやグループ・ワークの機会が増えている。また、学習者が何をどのように話したらよいか、書いたらよいか分からない時がよくあるし、自分の考えを伝えようともがいている場合も多々ある。そのような時、学習者の英語の学力レベルによっては、学習者に説明をしたり、指示を与えたり、学習者の理解度をチェックしたりするのに母語を使うことはある。

母語使用の利点を挙げるとすると、学習事項、たとえば単語や句・熟語、構文など、を説明する時に、特に抽象語の概念や意味を説明する時に英語でしては時間の無駄であるし、英語で説明したことを学習者がきちんと理解したかどうか不確かであることが多々ある。そういう場合には、日本語で行う方が限られた時間の中で正確に伝えることができる。

特に、英語学力が低い学習者にとって英語学習はたやすいものではないし、英語だけで授業を受けることは彼らにとって大変ストレスがかかることである。母語を使うことによって学習者はリラックスして目標言語を学習することができる。

日本はEFL(English as a Foreign Language)環境であるので、ESL(English as a Second Language)とは環境が大いに異なる。教室を一步出れば、すべて日本語で用を足すことができる環境にある。そのような環境のもとで、著者が考える日本語を使用したほうがよいと考えるときを10項目以下に示す。

文法の説明のとき

語彙の意味(抽象的な語彙に限る)を伝えるとき  
発音の仕方を教えるとき(英語で行う方が望ましい)

教室における生徒の行動管理(classroom behavior management)のとき

Code-switching(コード切り換え)を英語の知識が不十分な生徒に対して行うとき

日英比較対象をするとき

課題や宿題を与えるときに詳細な説明が必要なとき

複雑なペアワークや複雑なグループワークの方法を説明するとき

文化的な問題を深く探る必要があるとき

Schematic & Contextual Knowledge(概略そして文脈知識)を与える必要があるとき

Weschler(1997: 87-110)は、"L1 should be used in the classroom, since it can make the lesson comprehensible and save classroom time." (母語を使用すると授業が理解しやすいし授業時間を節約できるので、母語を使用したほうがよい)と主張している。

しかし、いつまでも同じように日本語を使用し続けることは好ましくない。学習者の学習レベル、英語運用能力の向上が進めば、母語の使用をできるだけ少なくすることが肝要であろう。これは、今回の調査でも英語で授業を受けることに慣れている生徒・学生は日本語使用の割合は少なくてもよいと答えていることから明らかである。Atkinson(1993: 13)は、"L1 can be a valuable resource if it is used at appropriate times and in appropriate ways." (適切なときに適切な方法で使用される

ならば母語は価値のあるリソースであり得る)と述べている。バイリンガル研究の第一人者である Cummins は、CALP (Cognitive Academic Language Proficiency 認知学力的言語能力) を教える初期の段階では母語の使用が効果的であると述べている。著名な応用言語学者の久保田は、彼女の新著「英語教育の幻想」(2018: 202, 211) の中で、「授業は英語で」は、海外の応用言語学ならびに英語教育における最近の動向からは支持されていない指導法であると述べている。さらに、海外の応用言語学の潮流は、言語習得における母語の役割を重んじる傾向にあり、それは、実証的・理論的・理念的な知見に基づいていて、授業を英語で行えば英語の習得が促進されるという確証はないとも述べている。

日本の中学校・高等学校・大学等で実践されているコミュニケーション・アプローチについても、厳密に言えば、母語の使用を禁止してはいない。目標言語を使用して学習しながらも、時と場合によって母語を使用することについては寛容である。母語使用を禁じたのは、Natural Method または Direct Method であり、Audio-Lingual Method であるが、期待されたほどの効果が生まれなかったことは周知のことである。

## 5. 今後の課題

今回の意識調査により英語の授業における母語使用は、目標言語すなわち英語の習得にネガティブな影響を与えるものではないことがわかった。しかし、まとめでも述べたように、母語を使用していた時と同じ頻度で母語を使用し続けることは避けなければならないと考える。

学習指導要領 (2009年3月告示) 第3款4「英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする」を実践していくためには、2つの大きな課題があると考えられる。ひとつは、多くの高校英語教員がよく話題にする「英語で授業を行っているが、大学入試問題が解けないし、大学入試で高得点がとれない」ということ、ふたつには、「英語表現」という科目が理念として、そして実際としては英語でコミュニケーションを行うはずなのだが、実際には英語でコミュニケーション活動を行わず、しかも文法の授業に化けてしまっている実態があるように、「英語

で授業を行う」ということがなおざりにされてしまうのではないかということである。

第一の課題については、大学入試センター試験をはじめとし、非常に多くの大学入試問題も大きく変化し、英語で授業を行っていたからといって解けない問題は非常に少ない。たとえば、「和訳しなさい」という類の問題はほとんど姿を消してしまっている。また、従来からの文法訳読式授業で英語を学習した受験生の大学入試センター試験の結果を見たところで英語力が前年度よりも延びているという証拠はない。

第二の課題については、英語教員の belief (「信念・信条」と訳されるが、適切な日本語がないので英語で表現する) の問題と英語教員の英語力の問題があると推測される。英語教員の belief には、一般的に大きく分けて、言語学習の belief と言語教育の belief がある。英語教員の belief の問題については調査に大きな困難はあるが、今後の研究が待たれるところである。また、英語教員の英語力の問題であるが、英語教員といえども、大学生の時に英語だけで授業を受けた経験がないこと、英語でコミュニケーションする自信がないこと、英語で授業を実践した経験が全くないこと、英語で授業をする方法についての知識もなく研修も積んだことがないこと、英語で授業をしようというモチベーションがわからないことなど、教員自身の自己研鑽だけでなく、行政の観点から、教員採用方法や教員の資質向上のための研修等にも打開策を見いだすことができると考えられる。

今後、可能であれば、英語教員の意識面での調査を詳細に行い、諸課題を解決していく方策を分析・考察し、研究していく必要がある。

## 参考文献

- Atkinson, D. (1993) *Teaching Monolingual Classes*. London: Longman, p.13
- Auerback, E. (1993) *Reexamining English only in the ESL classroom*. TESOL Quarterly 27, 1, pp. 9-32
- Dörnyei, Z. and J. Kormos (1998) *Problem-Solving Mechanisms in L2 Communication: A psycholinguistic perspective*. Studies in Second Language Acquisition, 20, 3, pp. 349-385
- Hopkins, S. (1988) *Use of Mother Tongue in the Teaching of English as a Second Language to Adults*. Language Issues, 2.2, pp. 18-24
- Krashen, S. (1981) *Second Language Acquisition and Second Language Learning*. Oxford: Pergamon, p. 67

- Nation, I. S. P. (2003) *The role of the first language in foreign language learning*. ASIAN EFL JOURNAL, Vol 5, Issue 2, p. 7
- Nunan, D. and C. Lamb. (1996) *The Self-Directed Teacher*. Cambridge: Cambridge University Press, p.100
- Schweers, C. W. Jr. (1999) *Using L1 in the L2 Classroom*. English Teaching Forum 37 (2), pp. 6-12
- Weschler, R. (1997) *Uses of Japanese (L1) in the English Classroom: Introducing the Functional-Translation Method*. Journal of Kyoritsu Area Studies, Tokyo, vol. 12, pp. 87-110
- 久保田竜子 (2018) 『英語教育幻想』 ちくま新書, p. 202, p. 211
- 鳥飼玖美子 (2018) 『英語教育の危機』 ちくま新書, pp. 95-96, pp. 99-100
- 文部科学省 (2009) 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/1282000.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1282000.htm)

Appendix 1

英語の授業における日本語使用に関する調査

英検所持級 ( ) TOEIC 得点 ( )

(英検やトイック取得していない人は空欄のまま)

この調査は英語の授業において日本語使用に対するあなたの態度を調べることがねらいです。回答は調査研究のためにだけ使用します。ご協力に感謝します。

1. 英語の授業で日本語を使うべきだと思いますか。(どちらかを○で囲む)  
はい                      いいえ
2. 英語の授業であなたの先生に日本語を使ってほしいですか。(一つ○で囲む)  
全然必要ない      少し使用してほしい      時々使用      大いに使用
3. 英語の授業においていつ日本語を使う必要があると思いますか。(複数回答可)
  - ① 新出語彙や抽象的な語の定義をするとき
  - ② 語句や表現の使用を練習するとき (例: 訳の練習をするとき)
  - ③ 複雑な文法項目を説明するとき
  - ④ 難解な概念や考えを説明するとき
  - ⑤ 指示を与えるとき
  - ⑥ もっと効果的な学び方について教えてくれるとき
  - ⑦ その他 具体的に \_\_\_\_\_
4. もし英語の授業で日本語の使用が必要だとするなら、それはなぜですか。(複数回答可)
  - ① 日本語を使用すると難しい概念をもっとよく理解するのに役立つから。
  - ② 日本語を使用すると新出語彙をもっとよく理解するのに役立つから。
  - ③ 日本語を使用すると安心するし、ストレスを感じないから。
  - ④ 日本語を使用すると授業であまり途方に暮れることがないから。
  - ⑤ その他 具体的に \_\_\_\_\_
5. 英語の授業において日本語使用は英語を学ぶ上で役に立つと思いますか。(一つ選ぶ)  
全然そう思わない      少しそう思う      かなり思う      大いにそう思う
6. 英語の授業でどの程度日本語を使うとよいですか。(一つ選ぶ)  
全く使わない      めったに使わない      時々使う      かなり頻繁に使う
7. 1時間の英語の授業において何%ぐらい日本語を使ってほしいですか。(一つ選ぶ)  
5%      10%      20%      30%      40%      50%      60%      70%      80%      90%

## Appendix 2

## TEACHER QUESTIONNAIRE ON THE USE OF JAPANESE IN THE ENGLISH CLASSROOM

This questionnaire aims to find out your attitude toward using Japanese in the English classroom. Your answers will be used for research purpose only.

Thank you for your cooperation.

1. Should Japanese be used in the classroom?

Yes                      No

2. When do you think it is necessary to use Japanese in the English classroom?

(You can choose more than one answer)

- a. to help define some new vocabulary items (e.g. some abstract words)
- b. to practice the use of some phrases and expressions (e.g. doing translation exercises)
- c. to explain complex grammar points
- d. to explain difficult concepts or ideas
- e. to give instructions
- f. to give suggestions on how to learn more effectively
- g. other, please specify \_\_\_\_\_

3. If you think the use of Japanese is necessary in the classroom, why?

(You can choose more than one answer)

- a. It aids comprehension greatly.
- b. It is more effective.
- c. It is less time-consuming.
- d. other, please specify \_\_\_\_\_

4. Do you think the use of Japanese in the classroom helps students learn this language?

no                      a little                      fairly much                      a lot

5. How often do you think Japanese should be used in the classroom?

never                      very rarely                      sometimes                      fairly frequently

6. What percentage of the time do you think Japanese should be used in the class?

Choose one.

5%    10%    20%    30%    40%    50%    60%    70%    80%    90%